

「あれ？お孫さん？」ノックの音に反応して玄関の扉を開けたマグワートの肩越しから部屋の中を覗き込んだ若者が、マジリアルを見て言った。彼の背中迄伸びる金色の髪が光風に巻き上げられ、顔の周りにふわつと漂い、まるでそこに天使が舞い降りて来たかのような錯覚にマジリアルは一瞬囚われた。

その美形で長身、目力のある若者はマグワートに促されるまま、ホワイトフロールの香りを振り撒きながら部屋を横切り、中央のソファに腰を下ろした。

「こちらのお嬢さんは足に怪我をしている上に記憶喪失で、う。どこにお連れしたいものやら分からないのじゃよ」マグワートの説明に再びマジリアルに視線を戻し、「どうして記憶喪失に？大丈夫？」と彼は聞いた。

「どうやら崖から落ちられた際に頭を打ったせいじゃろう」と答えるマグワート。それに続いて「とても怖いです。不安でいられますん。」マジリアルは伏し目勝ちにそう言った。

「そうじゃな。人は自分の名前、年齢、立場、そして自分の人生という歴史、つまり過去という記憶の上に自己というものを確立しておるものじゃからな。それが全て飛んでしまった場合、自己という存在をどう認識してよいやら分からなくなる。怖くて不安に思うのは無理もない」マグワートは白髪を撫

でながらそう言った。そして更に続けた。「人は時に年齢や立場、そういったものを全て放り出して自由になりたいと望む。自分は未だ幾つだから、或いはもう幾つだからこう生きなければならぬ、または、立場上こうあるべきだ、等という想いに縛られて、本来の自分として生きることを許されていないように感じることもある。しかし、実際に全てから解放された状態になれば、それはそれで恐怖と不安を感じるものじゃ。人は自分の年齢、立場に帰属し依存する中で持つ物差しで、自分や他者を計ることで安心するという側面もあるから。自由になりたいと望みつつ、実際には完全なる自由を生きることは難しいのう」

どう答えていいか考えあぐねているマジリアルに今度こそ、その若者が語り掛けた。「でもさ、君が戻らずに心配している君のご家族のことを横に置いて考えれば、シガラムが無い今の君は君として自由なスタンスで生きられるよね。どの誰か、どういう立場の人間なのか、歳は幾つなのか、そういったものから解放されて完全なるありのままの自分として」

「ありのままの自分？」戸惑うマジリアルに更に若者は続けた。「実は僕は隣国の王子なのさ。そして普段は王子として振舞うことを周囲から期待されていて、当然僕はそういう立場に生まれた宿命を全うしないとならない。けれど、時に

は僕は僕自身としてありのままの自分が在りたい。そんな時、馬でこつそりお城を抜け出し、こやつてこの森にやってくる。そして僕はここマジリアル爺さんと出逢ったのさ。王子としてはなく、単なる僕ウイザットとしてね」

「王子？」固まるマジリアルに、マグワートが言った。「人は相手が地位のある人物だと知ると、途端に態度が変わる。それは珍しい反応ではないし、お互いの立場をリスペクトして関わることは勿論大切じゃ。じゃが、立場だけが一人歩きせぬよう、立場や年齢といった色眼鏡を外してありのままの自分を生きることを、そしてありのままの相手とのエナジー交流を持つことも必要じゃ」

「そうさ。この爺さんは僕のことを王子扱いはせず、等身大の僕として接してくれる。だからこそ、僕は爺さんのことが好きで時々こやつて訪ねて来るのさ」そう言ってウイザットは白い歯を見せて笑った。つづく。



チャネリング相談

Q 結婚して10年になります。ずっと子供が欲しくて、ここ数年は夫婦で不妊治療を頑張ってきましたが、それでも子供に恵まれません。私達は最終的にアダプト(養子縁組)も視野に入れ始めていますが、血の繋がりの無い子供というものに不安もあります。どうしたら良いでしょうか。(Torrance 在住 Zさん)

A 肉体としての両親、そして魂としての両親、通常はそれがイコールのことが多いですが、元々は魂同士で親子になることを話し合ってきていますので、スピリチュアル的に言えば血の繋がりがあろうともなかつても、親子の縁がそこにはあります。時には人種という肉体を超えた親子の縁で結ばれているケースもあります。

そして、時たま、アダプトした途端に妊娠し実子も生まれるということも起こりますが、それはアダプトしたことにより、お子さんを持つというヴェールが上がったことが理由ですので、アダプトをせずもう少し待っていれば良かったと思うことはありません。アダプトしたお子さん、そして実子双方と親子の縁があり、そのお子さん同士は兄弟姉妹の縁があるのです。だからこそ、そういうことも起こるのです。

血は水よりも濃い、とも言いますが、それよりも濃いのは本来は縁のほうなのです。

親子は深い学びをする間柄です。子供が自分に似ていようが異なろうが、鶯が鶯を生もうが、蛙の子は蛙であろうが、それを超えた次元で親子というものには絆とそして愛の学びが用意されています。

血を分けた子供という感覚よりも、魂の絆のほうに着目することが本来の魂としての在り方です。

ただ、現実的にはアダプトをする際にはそれなりの覚悟というものが要るでしょう。そして、一旦覚悟を決めたなら、魂の絆を信じて下さい。